

『東海・東南海地震（震度6強）発生！』

国も初参加 安八町が大規模総合防災訓練を開催！

■最大級想定し、住民参加の防災訓練

- 3.11東日本大震災が発生して3年が経った16日、安八町は巨大地震を想定した総合防災訓練を行い、町民でつくる自衛防災隊、国土交通省、岐阜県警など13団体約1,000名が参加しました。

午前8時00分、東海・東南海を震源とした巨大地震（マグニチュード9クラス、震度6強）が発生、町内で甚大な被害が出た想定で訓練を開始。町は防災無線などを通じて避難勧告し、町民は名森小学校など町内31箇所に歩いて避難。その後、同校グラウンドでは町民らは地震体験や煙体験訓練、また、バケツリレーによる消火訓練、救助犬による要援護者発見訓練など各種訓練を行いました。

■バケツリレーによる消火訓練【消防部】



■救助犬による倒壊家屋救出訓練



各部に対し体制指示を行う堀町長（本部長）

■水防工法の体験訓練【消防部】

- 名森小学校のプール周辺では、地震により堤防が液状化し損壊した想定で、水防工法の1つである「土のう拵え工」を体験しました。



土のう拵え工を体験する皆さん

■照明車の操作体験訓練【国】

- 災害現場では、夜間や悪天候の中でも行われます。視界の悪い状態では危険が伴い、作業にも支障をきたします。そこで、十分な明かりを確保し、安全で迅速に作業ができるように、国土交通省は照明車を保有しています。今日の訓練では、照明車を展示し、町民の方々に、直接、操作レバーを操っていただき、その機動性を体験していただきました。

照明車



- 7階建てのビルの屋上と同じ高さから照らすことができます。また、50m先で、新聞が読める程度の明るさがあります。



■排水ポンプ車の実動訓練【国】

- プールでは、2011.3月の東日本大震災や2011.7月のタイ王国の大洪水で活躍した国土交通省所有の排水ポンプ車による実排水作業が行われ、町民らはその強力な排水力を見学し、水防意識についても高めていただきました。



排水ポンプ車



- この排水ポンプ車には4台の可搬式ポンプを装備しています。1秒間にドラム缶約2.5本（約30m³/分）の排水が可能。小学校のプールを10分ほどで空にすることができます。

排水ポンプ車による排水力を見学する皆さん



■防災パネルの展示【国】



- 地震災害対策本部長の堀正町長は、「一般的に災害発生から救助の到達まで3日間を要すると言われている。そのため、自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守る「自助」「共助」が災害発生直後は最も重要視される。さらに、行政機関や消防団等による「公助」を加えた相互連携により、共同体制を確立していく必要がある。来年度以降も、このような訓練を積み重ねていくことを予定しており、訓練を通じて、是非、災害対策活動等を習得してもらいたい！」と町民の皆さんに呼び掛けました。



終了式で挨拶をする堀町長（本部長）



安八町消防団等による機動演習

【出張所コメント】

- 安八町は、長良川と揖斐川の2大河川に挟まれた低平地に位置し、水害に対して脆弱な地域です。また、地震についても、今後、連動型大地震が発生した場合、安八町の最大震度は6強が想定されています。自分の住んでいる地域が、どこに弱点があるのか？ 河川氾濫、津波災害、土砂災害等々、場所毎に環境が異なるため、きちんと理解しておき、もし災害が発生したらどう行動を起こすのか？ 予めシミュレーションを行い、意識を持つことが重要だと考えています。